

第5回 地域づくり専門部会 開催結果概要

◆ タンチョウの繁殖による地域の魅力向上を、地域振興につなげるための取組を議論

- 開催日時：令和3年2月12日(金) 18:30～20:00
- 開催場所：長沼町役場 3階 会議室
- 出席者：計15名(うち委員7名) 傍聴者8名



報告・検討内容

(1) タンチョウの飛来・繁殖状況について

(2) 今年度の地域づくり専門部会の取組状況について

- 鳥の駅マオイトーの利活用状況
- 町内の学校へのお出前授業
- バードセーバーづくりイベントの開催
- 長沼町×鶴居村タンチョウ子ども交流ツアー(リモート開催)
- 長沼町のタンチョウをモチーフとした商品開発助成制度
- タンチョウ関連商品のPR
- 長沼町外のイベントでの取り組み・商品PR
- タンチョウイラスト集の制作
- 「広報ながぬま」における連載記事の掲載
- タンチョウも住めるまちづくりサポーター制度の設立
- 現地見学会の実施
- 長沼舞鶴小学校の利活用に関する検討
- タンチョウの保護と両立した観光商品造成の検討



(3) 来年度の地域づくり専門部会の取組計画について

- 過年度までの取組の継続
- 新規取組

委員からの主な意見

- 現地見学会で長沼町の資源の豊かさを再認識し、多くの方に知ってもらいたいと思った。
- 町内の他の農家にも、「タンチョウも住めるまちづくり」を農産物の付加価値等へ活用するという意識を持っていただけるように、農協などとも連携して議論を進めたい。
- 遊水地の来訪者が増える中、タンチョウの住む環境を守るためには、見守り隊との連携や観光ガイドの育成などの取組が必要。

総括



(一財)地域研究工房 代表理事
座長 小磯 修二 氏

- コロナ禍により施設利用者が大きく落ち込む中で、鳥の駅マオイトーの利用者数が大きく伸びているのは、タンチョウ雛誕生への関心の大きさを示している。
- 廃校跡地の利活用は地域活性化の主要なテーマ。行政には、関係者の意見を聞いてまとめるだけでなく、自ら将来像を打ち出し、実現方策を探る役割が求められる。
- 今後の人口減少時代には、遊水地においても多目的に共有・活用する commons の考え方が重要。